

# 第1学年 生活科 学習指導案

日 時：令和3年12月10日

学 級：第1学年1組（34名）

指導者

- 1 単元名 もうすぐ2年生 （全18時間） 内容 （8）生活や出来事の伝え合い  
（9）自分の成長

## 2 単元の目標

年長児と関わりを深める活動や、入学してからの1年間を「思い出すごろく」をつくって振り返る活動を通して、1年前の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々との関係を見付けたりして、自分自身の成長や役割が増えたことに気付くとともに、支えてくれた人への感謝の気持ちと進級への期待感や意欲をもって生活することができるようにする。

## 3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	年長児との交流活動の楽しさが分かるとともに、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさや、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	年長児にとって、どんなことを伝えればよいのかを考え、活動するとともに、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、1年前と今の自分を比べたり、支えてくれた人々との関わりを考えたりして、表現している。	年長児に学校生活のことを伝え、進んで交流しようとするとともに、それをきっかけにして自分自身の成長やそれを支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
小単元1 評価規準	①年長児と関わることのよさや楽しさに気付き、そのために必要な技能を身に付けている。	①これまでの体験を基に、年長児にとって、楽しく学校のことが分かる交流会の仕方を考え、準備したり交流したりしている。	①年長児に喜んでもらえるように、1年間の学校生活で得たことを分かりやすく伝え、進んで交流しようとしている。
小単元2 評価規準	②1年間の学校生活において、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなど、自分の成長に気付いている。 ③友達との関わり方やできるようになるための努力など、自分の内面的な成長に気付いている。	②1年間を振り返ったカードから出来事を選び、「思い出すごろく」をつくっている。 ③入学した頃の自分と今の自分を比較して、考えている。	②自分自身の成長や友達の成長に関心を持ち、振り返ろうとしている。
小単元3 評価規準	④共に成長した友達や自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いている。	④自分の成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、成長の喜びやこれからの生活について表現したり伝えたりしている。	③周りの人に支えられて自分が成長してきたことを実感し、感謝の気持ちを伝え、2年生への願いをもって意欲的に生活しようとしている。

## 4 単元について

### (1) 小学校学習指導要領より

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説生活編において、生活科の内容（9）「自分の成長」を中心に、内容（8）「生活や出来事の伝え合い」に基づいて設定した。

#### 内容（8）「生活や出来事の交流」

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

#### 内容（9）「自分の成長」

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

### (2) 児童の実態

本学級の児童は、優しい児童が多く、周りの友達の特性を理解し、お互いのよさを認め合いながら生活していこうとしている。帰りの会での「今日のきらきらさん」の活動を通して、友達と助け合い、認め合うよさに気付くなどの成長がみられる。年間を通して、久松幼稚園の年長クラス（まつぐみ）の園児と交流している。夏は、砂場遊びやシャボン玉遊びを見合い、秋は、園児と児童のペアをつかって落ち葉やどんぐり拾いをしたあと、一緒に遊んだ。その後、1年生が開いた「あきとなかよしまつり」に園児を招待して一緒に遊んだ。幼児との関わりを通して、年下の子の立場になって考え、実行できるようになってほしい。

### (3) 題材について

今年度もコロナ禍において、学習や行事には制限が多く、これまで行ってきたような活動や友達との関わり合いができないことが多い状況である。新しく始まった小学校生活に少しでも早く慣れ、安心して友達と楽しく過ごすために、4月は、接続期カリキュラムとして、生活科を中心にしたスタートカリキュラムを行い、「にこにこタイム」などを指導計画に入れて、主体的な学びへとつながるように実践した。また、児童は、自分のアサガオを6ヶ月間大切に育てたり、体育学習発表会において、力一杯表現遊びをしたりして、学習や行事を通して、1年生としての自信をつけてきた。

例年行ってきた、久松幼稚園や多くの保育園との交流も工夫し、来年1年生になる年長児への思いを馳せながら、1年前の自分を思い出し、自分たちにできることを考え、思いを伝えていく。それらの準備や活動を振り返る中で、自己の成長を実感することにつなげたいと考えた。

また、多面的に自分たちの成長を知る手掛かりを得るために、日頃お世話になっている校長、養護教諭、栄養士、家族などにインタビューする機会を作った。自分たちがあまり気付いていない成長を知ること、2年生の生活へ向けて、より一層自信を深め、進級を楽しみにしてほしいと考え、本単元を設定した。

育成を目指す子どもの姿（重点）

- ②情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深めることができる子（思考力、判断力、表現力等）
- ⑤互いの違いやよさ、個性を認め、尊重し合い、協働してよりよいものを求めようとする子（学びに向かう力、人間性等）

【**思考力・判断力・表現力** 創造性 多様な考え 主体性 **社会性** **思いやりの心** **協働性**】

- ・育成を目指す子どもの姿に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

本時はココ！

### 具体的手だてと活動

幼小連携を意識した単元構成  
(カリキュラム・マネジメントの視)

#### 1 幼児教育とのつながり

併設幼稚園の担任と話し合う時間を複数回設け、5歳児が入学に向けてどんな準備をしているか、どんな気持ちなのかを聞き、1年生での学習活動を組み立てる。年長の担任からの手紙を基に、児童自身が幼稚園や保育園等で過ごしていた1年前の自分を想起し、現在の年長児の気持ちに寄り添い、自分なりの思いや願いをもてるようにした。年長児の不安を取り除き、1年生への希望をふくらませたいという願いをもてるようにする。

#### 2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（自立性・社会生活とのかかわり）」と学びの姿のつながり

幼児期の経験を踏まえて、児童が本単元において主体的に自己を発揮しながら、学びに向かうことができるようにする。教師は、「自立性」「社会生活とのかかわり」と学びのつながりを意識して単元構成し、児童の学びの姿を見取る視点の一つとする。

国語科・生活科との関連  
(カリキュラム・マネジメントの視点)

#### ○活動と表現をつなぐ言語活動

1年間を通して、国語科の言語活動での目標「身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる」（知・技）と関連して指導している。児童が、活動や体験と表現活動とを繰り返し行うことで、思ったことや感じたこと、様子を表す語彙を増やし、言葉で表現する楽しさや誰かに伝えたいという思いが広がってほしい。

#### ○本校で育てたい「思考力・判断力・表現等②」との関連

国語科「ともだちのことしらせよう」では、資質・能力②を「友達を取材して、紹介するために必要な事柄を集める」と捉え、本単元に生かす。国語科「いいこといっぱい1年生」の学習と関連付け、書きためてきたカードから必要な事柄を選んだり、比較したりして「すごろく」に書く活動につなげる。

小集団活動の活用  
(思いやりの心・協働性)

#### ○ペアでの学習活動

年長児にどんなことをしてあげたいか、伝えたいかなど自分の考えたことをペアで伝え合い、同じ考えや違う考えに気付くようにする。「学校クイズ」を一緒に考えたり、すごろくを見合って、友達に相手のよさを伝えたり、よりよくなるアドバイスを試行錯誤したりする場面をつくり、新たな気付きを見出し、気付きの質を高める。

友達ががんばったことや素敵なことを見つけて書き、カードを渡し合う活動を繰り返し行う。友達のよさに気付くとともに、新たな自分への気付きも生まれ、自分に自信をもつことへとつなげたい。

本時はココ！

言語活動の充実  
(思考力・判断力・表現力)

#### 1 思考ツールの活用

思考ツールを学習活動に取り入れ、児童が自分の考えと友達のを比べたり、順序付けたりして、話し合いを活発にする。

- ・順序付ける（すごろく）
- ・比較する（エリアチャート）
- ・具体化する（ピラミッドチャート）

#### 2 「思い出すごろく」

入学後の自分を振り返り、心に残っている出来事をカードに書き、順序を考えて並べ、すごろくを作成する。1マスずつ進んでいくすごろくの特徴を生かして、自分の成長や足跡を意識し、遊びながら友達に話したり、さらに詳しく書いたりしたくなるような活動となるようにする。



7 本時の学習 (2/20時)

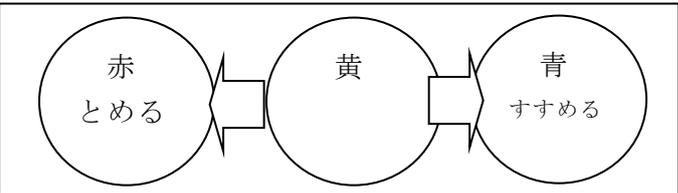
(1) 目標

「ようこそ久松小学校へ」の会で年長児にどんなことができそうか、してあげたいかについて考え、話し合う。

幼小連携を意識した単元構成  
(カリキュラム・マネジメントの視)

言語活動の充実  
(思考力・判断力・表現力)

(2) 展開

時間	主な学習活動・予想される児童の思いや考え	◇指導上の留意点・支援 ☆評価 (方法)
5	1 本時の活動とめあて、見通しを確認する。  めあての例  「ようこそひさまつ小学校へ」のかいで、まつぐみさんにしてあげたいことをみんなでかんがえよう。	◇秋の交流活動を思い出せるような写真などを準備する。 ◇コロナ禍のため、直接交流ができないことも考えて計画を立てる。
10	3 ペアで自分の考えを伝え合う。 【予想される児童の思いや考え】 ・小学校は楽しいことがたくさんあるよ、と教えてあげたいな。どうしてかという、心配をなくしてあげたいからです。 ・うん、いい考えだと思います。 ・宿題のことも教えてあげたいな。	◇1年間の成長を振り返るきっかけにするために、入学前(1年前)の自分を思い出して考えるようにする。 ◇単に幼児と交流するのではなく、「入学前」の年長児にとってどんな交流をすると喜ばれるのか、自分と重ね合わせて考えるよう促す。 ◇自分と同じ考えや違う考えを知る。 ◇相手の考えを共感的な気持ちで聞くようにする。 ◇「エリアチャート」を使い、すすめる、とめるの視点で比較して考えるようにする。
25	4 全体で意見を出し合い、「エリアチャート」に分けながら、話し合う。 <b>エリアチャート</b>  【予想される児童の思いや考え】 ・給食のことを教えてあげたいです。どうしてかというとききらいがある子もいると思うし、安心させてあげたいからです。	◇「 <b>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</b> 」とのつながり <b>(2) 自立心</b> 幼児期に、自分なりの課題をもって様々な活動を楽しむ中で、考えたり工夫したりしてやり遂げた喜びを味わってきた経験を踏まえ、より難しい学習課題に諦めずに取り組み、自信をもって行動する姿へつなげる。 <b>(5) 社会生活との関わり</b> 幼児期に小学校との交流を通して、小学校の生活を知り、就学に期待をもつ経験と、小学校に入学後、児童が色々な人と関わりながら学校生活に慣れた経験を踏まえて、活動に必要な情報を判断したり、伝え合ったり活用したりしながら、身近な人の気持ちを考えて関わり、自分が人の役に立っている喜びを味わえるようにする。
5	5 活動を振り返り、次時にすることを考える。 【予想される児童の思いや考え】 ・まつぐみさんに、やりたいことを聞いてみたい。 ・自分たちの考えを幼稚園の先生に知らせる。	☆これまでの体験を基に、年長児にとって、楽しく学校のことが分かる交流会の仕方を考え、準備したり交流したりしている。 【思①】(行)(発)

## 8 板書計画

